

火遊び・花火による火災の防止

～ルールを守って楽しい花火～

保安対策課

1 火遊びによる火災を防止しましょう

全国の令和3年中の火遊びによる火災は309件発生しています。

子供だけで火遊びをする時に発生することが多く、そのため火災の発見が遅れ、火災が拡大する要因になります。

火遊びによる火災のうち、「ライター」によるものが177件(57.3%)で最も多く、次いで「マッチ」によるものが64件(20.7%)、「火のついた紙」によるものが10件(3.2%)となっていて、これらが全体の件数の約8割を占めています。

火遊びによる火災を未然に防ぐためにも、大人が子供たちに対して正しい火の取扱い方や火災の恐ろしさを教える必要があります。火を使う前は、子供たちと火の取扱い・火災の恐ろしさについて話し合うようにしましょう。

子供の火遊びによる火災防止のポイント

- ①子供だけを残して外出しない
- ②ライターやマッチを子供の手の届くところに置かない
- ③子供だけで火を取り扱わせない
- ④火遊びをしているのを見かけたら注意する
- ⑤火災の恐ろしさ・火の取扱いについて教育する

2 花火は楽しく安全に遊びましょう

夏の風物詩と言えば、「花火」。子供たちにとっても楽しみな季節となりました。夕暮れ時になると、色とりどりの花火が私たちを楽しませてくれます。しかし、遊び方を誤ると、気軽に楽しめる花火も、火災や火傷などの事故につながりかねません。

全国で、花火による火遊びが原因の火災は令

和2年中に6件、令和3年中に2件発生しています。

火災や火傷などの事故が起こらないよう遊び方には十分注意し、楽しい夏の思い出にしましょう。

花火を安全に遊ぶポイント

- ①風の強いときは花火をしない
- ②燃えやすいものがなく、広くて安全な場所を選ぶ
- ③子供だけでなく大人と一緒に遊ぶ
- ④説明書をよく読み、注意事項を必ず守る
- ⑤水バケツを用意し、使った花火は必ず水につける

SFマーク付きのおもちゃ花火を使用しましょう

(公社)日本煙火協会の検査所では、火薬類取締法に適合しているか否かを見る「基準検査」、また、花火の構造、燃焼現象、使用方法に係る表示を確認し、実際に着火して危険の有無を調べる「安全検査」を実施しています。これらの検査に合格したおもちゃ花火には、SFマークが付されています。

